

状〔C〕

てがみをもつて けいじょう  
 以三手紙啓上」仕候、先以<sup>ますもつて</sup>此間ハ御出被下候」所、早々仕合  
 ニ」奉<sup>せ</sup>存候、然者<sup>しかれば</sup>御道中つゝが<sup>(恙)</sup>なく御かへり」可<sup>(補)</sup>被<sup>(重)</sup>成と奉<sup>(遠方)</sup>  
 存候、「其砌りハかん中と」申、をもき荷を、「ゑんほうの所、「御  
 頼申上候段、「まこと以、あり<sup>(誠)</sup>」かたき仕合ニ」奉<sup>(有難)</sup>存候、は、」  
 事茂、みなく様、「万事ゆたん」なく、御かへほうニ」預り、段々<sup>(介抱)</sup>  
 よろしくと、「平右衛門様御出」手紙御はなしニ而、「家内一同ニ」  
 大よろこひ候、「殊ニ今日ハ」御同前ニとしこし」にて、よろこ  
 ひの「あまに、」おやの手に「あまつて、」ゑとへおいた」され、  
 また」てににきる」年こしの」まめ、  
 おにわそと」福ハ内ちう」まめたらけ  
 (鬼)は(外) (中)

内物

目出たいや」こゑやひらめの」たい所、しろ」みすなかつ」よろす  
 よま」て茂  
 (世) (鯉) (平目) (台) (白) (水) (流) (万)  
 と申て、家内」一同ニ目出度」は、をゆわへ」申候、御わらゑ」  
 茂かり見す」申上ケ候、ますく」は、事を、「ゆたんなく、」か  
 ゑほう」いたしくれ候」やうに、おませ・小太郎方へも、「御き  
 をつけ」被下様ニ奉頼上、「万事ハ此間」御頼申上候通り、「よ  
 ろしく」御頼上ケ候、右」参上仕、目出」度御礼」申上度、如<sup>(母)</sup>此  
 ニ」御座候、以上

塩原太助

十二月廿三日

原沢太七様

同 源次様

人々御中